

西淀川記憶あつめ隊

Vol.8

西淀川には川や海の水面よりも低い所があるため、何回となく水害に苦しめられてきました。今回は、ジェーン台風、第二室戸台風の2つの台風についてのお話です。



平木福男さん、寿美子さん

◆2つの水害に遭遇

平木福男さんは81歳、寿美子さん75歳、野里在住のご夫婦です。福男さんは1950(昭和25)年のジェーン台風、1961(昭和36)年の第二室戸台風の2つの台風で被害に遭遇しています。

ジェーン台風の襲来当時、福男

平木 福男さん
寿美子さん

2013年12月26日
聞き取り

さんは18歳、父と貸家の2階で2人暮らしをしていました。淀川右岸堤防が決壊し、当時福男さんが住んでいた姫島も1mほど浸水しました。住んでいた2階を1階の方に明け渡さなければならず、親せき宅に身を寄せました。水は2週間ほどひかず、倒れた塀の木材を活用して筏をつくり、物干し竿を權にして、移動していたそうです。

◆命からがら逃げた第二室戸台風

その後、大和田に引っ越した福男さんは、またもや台風の被害にあいました。第二室戸台風の襲来当時、福男さんは29歳、奥様の寿美子さんと結婚し、1歳半と6か月の子供が二人、両親、

妹と一緒に住んでいました。第二室戸台風が大阪に襲来した9月16日には、福男さんは会社を休み、家の中で台風に備えていたそうです。近所の人たちは早めに大和田小学校に避難していましたが、「下の子が小さくて…」避難所に抵抗があったそうです。

お昼頃、福男さんが外に様子を見に行くと、近所の人が「水が来たぞー」と叫んでいました。そこで、着の身着のまま家族みんなで逃げだしました。水と一緒に、電柱の建替えのために道路におかれていた杉の木が、平木さん家族を追いかけてきました。どうやって逃げたのか思い出せないほど、命からがら、福島女子高等学校(現好文学園女

子高等学校)に避難しました。

学校で一晩過ごした後、奥様の寿美子さんと子供たちは神戸にいるお姉さん宅に身を寄せ、残された福男さんたちは学校で1週間ほど過ごしました。ですが、ここは、指定の避難所ではなかったため、当初配給が届きませんでした。高校の付近に住んでいた人々が、自分達の配給を分けてくれる等、親切にしてくれました。

◆災害の後

水がひいた後は、掃除が本当の大変だったそうです。ほとんどものものに泥がついて汚れてしまっていました。使えるものはできるだけ洗って使ったそうです。「子どもたちが小さかったから、床に石灰を撒いて早くに畳を入れてしまったら、畳が腐ってしまった」と悔しそうに仰っていました。衛生状態は非常に悪

【ジェーン台風】

1950(昭和25)年に大阪を襲った台風。強風、高潮の発生、淀川右岸堤防の一部が決壊により、西淀川区内で全半壊流失8,786戸、死者・行方不明58人を出し、排水には2週間以上を要しました。

【第二室戸台風による西淀川の被害】

昭和36(1961)年に大阪を襲った台風。神崎川が氾濫して、大和田、出来島、御幣島では家屋のほとんどが床上浸水の被害を受けました。

災害のお話を聞かせていただける方は、お気軽におおぞら財団(06-6475-8885)までご連絡ください。

かったようですが、「集団感染病にもならなかったのはよかった」とのことです。こうした水害の体験について子どもたちにも詳しく話していないそうです。「嫌な汚い思い出なので、忘れたいと思ってしまう。その頃は前進あるのみで後ろを振り向いている暇はなかった」とのこと。西淀川の人々の我慢づよさ、前向きさを感じるとともに、今、記録していかないと貴重な体験が後世に伝わらずに失われてしまうと焦燥感も感じました。

(日本学術振興会特別研究員) 谷内久美子

※この活動は公益財団法人JR西日本あんしん社会財団の助成でおこなっています。